

2年間の在外教育施設勤務を振り返って

— 改善に努力してきたこと —

前サンパウロ日本人学校 校長

群馬県邑楽郡大泉町立北中学校 校長 清水 喜 義

キーワード：バリアフリー，修学旅行の見直し・変更

1 はじめに

サンパウロ日本人学校は創設42周年を数える比較的大規模な在外教育施設である。校地として12万平米（東京ドーム2.6個分）という広大な面積を持っている。校地内には校舎，体育館，運動場，プールなどの施設の他，ミニジャングルを始め，コーヒー園，バナナ園，ラランジャ（みかん）園，マンジョッカ畑などがあり，一年の中でそれぞれ豊かな実りの時を迎える。また，プリマベラ，ジャカラダ，イペー，各種の蘭などを始めとする花々が常に咲き乱れている美しい学校である。小・中学部合わせて160名の子ども達は，この自然に恵まれた広い学校で伸び伸びと育っている。私の国内での在籍校は邑楽郡大泉町に所在している。町民の割以上を外国籍の人々が占め，その中の多くはブラジル国籍の方々である。そして当然，町内の小中学校には多くのブラジル国籍の子ども達が通学している。私がサンパウロに赴任したのも何か縁のようなものを感じている。私の勤務は2年という短い期間ではあったが，この勤務を通して様々なことを見聞きし，様々な人々との出会いがあった。以下勤務を振り返り，微力ではあったが，私なりにここで学ぶ子ども達のために考え，改善を試みたことについて述べてみたい。

2 改善に努力したこと

(1) 校内のバリアフリー化

前述の通り，サンパウロ日本人学校は広大な敷地を有しており，施設間の移動距離も長い。加えて土地自体が傾斜地であるため，敷地内には多くの階段があり，移動に苦勞が伴うのが実情であった。特に下肢に怪我を負った児童生徒，また高齢の来校者にとっては，美しい場所ではあるが，移動に負担がかかる場所でもあった。

赴任1年目の年度途中で，ある企業から下肢に障害のある生徒の受け入れの可否についての打診があり，本校の施設的な実情を説明したところ，施設改善により受け入れ可能ならば，できるだけの協力をするとのお話をいただいた。学校理事会でも予算執行面を含む了解が得られ，次のような施設改善等に取り組んだ。

- ① 中学部棟及び体育館に至る経路に所在する長く，急な階段2カ所に緩勾配のスロープをそれぞれ設置。
- ② 理科室棟，視聴覚室棟の2カ所に簡易エレベーターを設置。
- ③ 校内3カ所にバリアフリースイレを設置。
- ④ 校内移動用電動カートを配備。
- ⑤ 建物入り口等，全ての段差の解消工事または 解消用器具を設置。



「中学部棟に至る長く，急な階段」

これにより本校児童生徒、職員のためのみならず、「訪れる人みんなに優しい」学校づくりへの一つの改善ができたと思う。

(2) 修学旅行の見直し・変更

サンパウロ日本人学校では、中学部2年生で義務教育最後の修学旅行を実施している。旅行先は、ここ30年以上にわたってブラジル南部のサンタカタリーナ州、ブルメナウ方面で実施してきた。3泊4日の日程の主な活動は、ブルメナウのドイツ系現地校との交流、そして夜に開催されているオクトーバーフェスタ（ビール祭）の街頭パレードへの参加である。

例年生徒達は、中学校生活の最後の旅行的行事として位置づけられるこの修学旅行を通して数々の良い思い出を残してきている。しかし、長きにわたって積み重ねてきている現地校との交流の価値を除き、それ以外の活動内容の質については賛否両論があった。改めて見直す必要があったが、日常の多忙感や定期的に入れ替わる派遣教員の実情から、見直しがなされないまま継続されてきた現状があった。

そこで、平成20年9月に以下のような変更計画を立てた。



「中学部棟に設置したスロープ」

平成22年度 中学部2年生の修学旅行先変更計画

◎中学部2年生の修学旅行について、フロリアノポリス、ブルメナウ方面（3泊4日）を変更し、ブラジリア方面への2泊3日とする。

※上記変更理由

○首都ブラジリア訪問の意義

ブラジリアにおいて大統領府、国会議事堂、最高裁判所、日本大使館等を訪問し、ブラジルの政治、経済や外交等について学習しブラジル理解を深めること、また、計画都市として世界遺産にも指定されている都市全体及び各種建造物の鑑賞をすることにより、その歴史を学んだり、芸術性を味わうことは中2の学齢にふさわしい。

○中2修学旅行としての意義

フロリアノポリス、ブルメナウへの中2修学旅行は長く実施され、本校の伝統ともいえる行事となっている。しかし、4日間の活動内容を改めて考えた時、長年にわたって継続してきた現地校との交流を除き、夜間でのビール祭への参加、遊園地での一日班別自主活動など、中2の学齢としてふさわしいかどうか疑問が残る。

以上の事柄をふまえ、平成20年8月、ブラジリアでの現地調査を実施した上で、中2の学齢としての学習という視点に重点をおき、次のような実施計画を策定した。

平成22年度 中学部2年修学旅行（ブラジリア）実施計画

1 ねらい

- (1) 首都ブラジリアを訪ね、ブラジルの政治、経済、外交をはじめ、文化・歴史・産業等について見聞を深める。
- (2) ブラジリアのセラード（乾いた土地）に生息する動植物と触れ合いながら、ブラジルの自然についてより深く知るとともに、セラード開発による農業について学習する。
- (3) 現地校との交流や各種施設訪問を通して、国際社会で生きるための資質を高める。

(4) 団体での生活・行動を通して、必要な規律やマナーを自ら守り、自律的集団行動の質を高める場とする。

2 実施時期

平成22年度から、2学期（10月）に2泊3日で

3 訪問先

首都ブラジリアとその近郊

大統領府，国会議事堂，最高裁判所，日本大使館，交流校，自然体験施設，セラード学習の場

4 備考

- (1) 平成22年4月～修学旅行実施前までにできる限りの現地調査を実施する。
- (2) 中1までに積み重ねてきた交流経験をふまえ、中2としての交流のねらいを具現化できる交流先（現地校）を選定しておく。
- (3) ブルメナウの現地校に訪問・交流の打ち切りを承諾していただく。
- (4) 1月の理事会で変更の承認を得る。
- (5) 理事会承認後、現中学部1年生保護者を対象とした説明会を開催する。
- (6) 必要経費は、保護者の負担増に配慮し、できる限り従来と同等にする。

現地調査は平成20年度から22年度（実施2ヶ月前）までに3回予定し、すでに2度の調査を終え、実施に向けた諸準備を整えてきた。修学旅行の柱の一つである交流先現地校も日本大使館担当者の仲介ですでに確定し、本年度は実施を前に細部の日程調整を残すのみとなっている。このブラジリアへの修学旅行変更については、自分なりに生徒への思いを込めて準備を進めてきたが、実施前の本帰国となり、残念ながらその成果や課題を自分の目で確かめることはできなかった。今後、参加生徒にとって素晴らしい学習と思い出の残る場となるよう願ってやまない。



ブラジリア